学校教育実践コース（保健体育専修）・健康スポーツコース，ボールゲームＥ
担当教員：福田　隆　・堺　賢治

ボールゲームＥの授業評価・授業研究報告書

保健体育講座・福田　隆

１．はじめに

本授業（ボールゲームＥ）は、昨年度から開講が始まった新設科目である。昨年度は試行錯誤的な側面もあったが、今年度から本格的な開始となった。

授業の目的は、バレーボールとハンドボールの指導者として必要な基本的な知識と指導法を学習する。また、ボールゲームの基本動作をデモンストレーションできるために必要な能力を養成する。さらに、応用的技術として、各種フォーメーションやルールを理解し、審判方法やゲームの運営法を学習することである。バレーボール（福田）とハンドボール（堺）を２名の教員が分担し授業を行った。この報告書は、福田が担当したバレーボールを中心にまとめたものである。

２．シラバスに掲載した授業の内容

２－１　スケジュールについて：

1-7 回目は、バレーボール（福田）、8-14 回目は、ハンドボール（堺）が担当する。

第１回　 バレーボールを触るために必要な構えの姿勢と基本的な動き。ボールに慣れる
第２回　 基本的なパス（オーバーハンド・アンダーハンド・シングルハンド）と各種練習法
第３回　 サーブとサーブレシーブ、サーブレシーブのフォーメーション
第４回　 スパイク（助走・踏み込み・空中姿勢・ミート・スイング）とブロック
第５回　 ルールと審判の方法
第６回　 基本的なオフェンスとディフェンスのフォーメーション、ゲーム
第７回　 各種戦術とゲーム運営
第８回　 ハンドボールでのステップ・シュート、ジャンプシュート
第９回　 パス、フェイント、１対１
第 10 回　 ２対２、３対３
第 11 回　 ルールの説明と審判法
第 12 回　 ハーフ・ハーフコートハンドボール
第 13 回　 オフェンスとディフェンス
第 14 回　 ハンドボールの運動学
第 15 回　 総括第

２－２　受講のルールにかかわる情報：

欠席や遅刻をしないこと。体調を整えて受講すること。

２－３　評価にかかわる情報：

トレーニング実施状況：１０％
基礎的技術レベル：２０％
応用技術レベル：３５％
指導技術：３５％基礎技術の実技試験

３．受講者について

今回は、生活健康課程健康スポーツコース、保健体育専修の１・２回生の男子学生を対象として行い、33 名の受講者で授業を行った。昨年は、保健体育専修以外の学生も多く参加したが、今回は他専修の受講がなく、参加者の体力や運動能力が高かったため、授業の内容を当初の計画を若干変更しなくてはならない状況になった。しかし、受講者の実技レベルの個人差が大きかったことから、授業に対する新たな工夫が必要となった。

４．授業改善を行う上での工夫

バレーボールの授業の改善のために、学生が作成したレポートの中に授業に対する感想や意見の項目を設定し、基礎資料を収集した。また、授業中や授業の前後に学生との対話時間を多く作り、授業に対する学生の取り組み状況や問題を把握し、授業を評価するとともに授業改善の方策について検討した。

５，授業評価

（１）施設・授業の準備状況：

受講者の制限は行っていなかったが、今回の受講生は 33 名で技術練習やゲームを行うに当たっても適した状況で開講できた。体育館もバレーボールコート 2 面が占有でき、指導環境としては、最適であった。昨年度の課題であったバレーボールコートの設営に要する時間の短縮については、

準備担当者を決めたことや受講者が協力して手際よく授業の準備にあたってくれた。これらの作業は、授業を効率よく行うためだけでなく、学生が指導者になった時には、欠かすことができない知識の一つになるであろう。しかし、授業直前に来る学生をまったくなくすことはできなかった。

（２）実技の内容：

授業は、実技練習が中心となるが、方法論や理論的な説明も多く取り入れた。個人の技術向上をねらうが、学生が相互に指導者と生徒の立場に別れ、お互いに指導しあうことにより、指導能力と各個人の技能の向上を目指した。実技の内容は以下のとおりである。ウォーミングアップ、指導補助技術(ボールの投げ方等)、基本姿勢、アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、ミート、アタック、ブロック、サーブ、レシーブ等である。

今回は、自由練習の時間や学生が相互に指導し合う時間を多く取り入れたことにより、指導力と技能の向上が確実にできた。しかし、単調な練習や基本練習の時間が多く、もっとゲームを楽しみたい等の声もかなりあったが、基本練習の必要性と指導法の学習は、ゲームを楽しむために不可欠であることが学生に理解してもらえたことが、感想文によって確認することができた。また、本来の目的は達成できたと思っている。基本練習の時間を多くすると個人技能は向上するが、学生の楽しさは、減少する。応用練習を多くすると、技能向上や指導法が習得できない。学生の質にもよるが、満足感のある授業内容にすべく、今後もこれらの比重について検討するする必要があろう。

バレーボール競技の経験者もいるが、受講者の多くは、技術水準が低く、指導法の学習については、初心者である。また、初心者を対象とした指導者の育成を目指すことから、授業で扱う内容も基本を中心に行うこととした。しかし、単純な基本動作であっても、正確にわかりやすくデモンストレーションできる技能の習得を目指した。そこで、2 人組みや少人数のグループを作り、学生が相互に指導者となり、学生全員の個人技能と指導法の向上を目指した。この結果、個人の技能水準は、大幅に向上できたと思われる。しかし、ボールを打つ技術やオーバーハンドパスの技術は、半期間の授業で完璧に完成されるものではなかった。より高度な技能を習得するためには、時間外の自習等が自由に、円滑にできる体制も今後必要と思われる。

（3）バレーボールの理論と審判方法：

今回の受講学生は運動能力が高く、ゲームを楽しむための最低限の技能はあったが、ルールや審判方法に関する知識が乏しかった。これらの内容については、授業計画の終盤にまとめて行うようにしていた。ルール等の知識は、短期間で理解することは可能であったが、審判をする上でのホイッスルの吹き方やハンドシグナルの技能は、十分に習得することはできなかった。受講生も高校生以下の体育の授業でバレーボールを経験してきているが、正式な審判の方法については、全くの初心者であり、この知識もなかった。今回は、短い時間ではあったが、全員に個別に指導することができ、ルール上では一部に過ぎないが基本技能の習得を図った。感想文の多くに審判法の実技に関するコメントがあり、今回あらためてこの内容に関する必要性が確認された。コメントの内容以下のとおりである。①正確な審判法を全く知らなかった。②審判が正しくできることにより、ゲームも円滑に進行する。③指導者として、審判ができないことが恥ずかしい。④バレーボールの試合は見ることがあるが、レフリーを見たことがなかった。これからは、もっとレフリーも注目して見たい。⑤笛の吹き方の重要性をはじめて知った。⑥ルールが正確に分かることにより、バレーボールの戦術の意義が理解できた。

今後の課題として：①もっと早い段階から少しずつ分けて説明していく。②全員にレフリーを担当する機会を多く与える。③正確な笛の吹き方とハンドシグナルの技能を習得させる。しかし、ゲームの時間が多くなると個人の技能向上ができないので、これらの課題については、今後実践の中で検討していきたい。

（4）問題点と対策：

①これまで行ってきたバレールの授業と比較すると時間的に半分に削減された。そのため技能習得のためには授業時間外の復習や練習が必要である。今後、時間外の練習環境の整備について検討する必要がる。

②レポートの中で技術に関する項目を入れたが、授業中に説明した指導のポイントが多く忘れ去られていたことが明らかとなった。実技中心の授業であるが、必要事項を整理したプリントの配布や、授業中においてノート（メモ）に記入できるような工夫をしていきたい。

③実技試験については、事前に課題を与えていたが、課題をすべてクリアーできないと単位が取れないことを期間の途中で知らせたことから、これ以降は意欲の向上が見られた。はじめから、正確に説明しておくべきであった。